

北九州切手のつどい 20 を終えて

橋本たねひろ

令和2年2月9日、三々五々参加者が来訪する中準備を終え、予定通り午前10時、北九州切手のつどい 2020 は当支部会員久米氏司会のもと、約50名の参加者を前に開会となった。

日本郵便（株）北九州中央郵便局郵便部副部長及び九州沖縄地方本部長の祝辞、挨拶に続き、鹿児島支部谷之口氏による記念講演「2019年を振り返って」が始まった。

氏の講演は、氏自身が手がけた様々なアイテムから、多角的に昨年1年間を振り返るもので、端的に言えば、「切手のみならず多方面から郵便史を見なさい」ということだろうと理解できるもので、皆さんの今後の収集の方向性を探る上で大変参考になるものであった。

お楽しみ抽選会は、抽選者に下関からの女性の助けを得て、盛り上がりを見せた。

テーブルバザールは、5名の出店で人だかりが絶えず、紙付き切手掘り出し市にも多くの人を得たことは、主催者側として大きな喜びであった。

小郡、福岡、山口はもちろん、九州一円からも参加者があったことは、支部としては大いに喜ばしいことであった。

展示作品の「櫛型印欧文印の研究」は、久米氏の作品であり、かなり専門的な分野ながら関心を示した方がおり、この分野に限らず私のような昭和切手の収集家にとって見本とすべき作品であった。

多くの支部会員の努力によって、つどいを成功裏に終えたことに紙面を借りて感謝申し上げるとともに、こういった機会に何かを得ていただければ幸いである。

今後の課題として暫減する参加者増対策と、予算削減又は収入増対策にあると考えられる。